

Plan S の原則と実施に関するガイダンスに対する改訂の合理的根拠

2019年5月31日

要約

改訂後の Plan S でも根本原則は維持されている。

- いかなる学術論文も、有料の壁（ペイウォール）の背後に閉じ込めてはならない。
- オープンアクセスは即時性のあるものでなければならない。すなわち、エンバーゴ（掲載猶予期間）が設けられていてはならない。
- 完全なオープンアクセスはベルリン宣言に従い、クリエイティブコモンズ表示 CC BY ライセンスを既定値として使用することによって実施する。
- 助成機関は合理的なレベルのオープンアクセス出版料の支援に取り組む。
- 助成機関はハイブリッド型（またはミラー／姉妹型）ジャーナルでの出版には支援を行わない。ただし、これらが終了時期を明確に定義した移行契約の一環である場合は除く。

ただし、実施に関するガイダンスには、いくつかの重要な変更が提案されている。

- 研究者および出版者が時間をかけて Plan S のもとでの変化に適応できるよう、スケジュールを 2021 年まで 1 年間延長した。
- 移行契約は 2024 年まで維持される。
- 移行契約において支援するオプションを増やす（移行契約、移行モデル契約、「移行型ジャーナル」）。
- 多様な要件遵守経路についての説明を明確化する。すなわち、Plan S は単なるオープンアクセス出版の掲載料モデルに関するものではなく、cOalition S はオープンアクセスジャーナルおよびプラットフォームに関わる多様な持続可能性のモデルを支援する。
- 研究に対する報奨やインセンティブシステムの変更を進める。すなわち、cOalition S の助成機関は、研究者や学術成果物の評価基準を適合させることを明確に誓約する。
- オープンアクセス掲載料金の透明化に関する重要性を強調することにより、市場や助成機関の手でこれらの料金の支払いを標準化し、上限を設定できる可能性があることを知らせる。
- オープンアクセスリポジトリに対する技術上の要件事項を改訂した。

2018 年 9 月の立ち上げから、Plan S は学術出版物へのオープンアクセスに関するグローバルな論争と、この目標の最善の実現方法に関する協議を再活性化してきた。このこと自体が疑いようのない進展である。実施に関するガイダンスの草案を公表してから、我々はパブリックコメントを求めて計画案を提出した。—これはオープンアクセスポリシーに関して

行われた過去最大の国際的な協議である。この公開のフィードバックプロセスは欧州全体および域外で、大学で、学术界で、そして地域と国内の両方のレベルで無数の協議と率直な討論を誘発してきた。その結果として、我々のもとには、40 を超える国々の大学や学協会、出版者、学術協議会、研究者個人から 600 以上のフィードバックコメントが寄せられたのである。

cOalition S は、労を惜しまずに回答を寄せてくれたすべての人々、ならびにソーシャルメディアで具体的な助言を提供したり、オープンアクセスに関する重要な課題について協議したり、他の形態で Plan S に関する情報を提示してくれた多くの関係者に感謝している。

これらのコメントの持つ重みは、もう一度包括的な原則に立ち返り、その表現方法を精緻化するとともに、実施に関するガイダンスの改訂をするよう我々に働きかけるものであった。寄せられたフィードバックは広範囲に及び、Plan S の趣旨を支援し、完全かつ即時のオープンアクセスを実現するために追及すべきコミュニケーション上の課題と潜在的な介入の可能性について、cOalition S 参加機関に情報を提供するのに大いに役立った。

完全かつ即時のオープンアクセスへの移行に関して他の多くの連携団体が成し遂げてくれた作業に謝意を表したい。特に、OA2020 による取り組みと、ヨーロッパ大学協会 (EUA)、ヨーロッパ研究大学連盟 (LERU)、欧州研究集約型大学ギルド (The Guild of European Research-Intensive Universities)、欧州若手研究大学 (the Young European Research Universities、YERUN)、全欧アカデミー (ALLEA) が欧州で発揮してくれたリーダーシップは、評価されるべきものであった。我々は今後も、目標の追求に多年にわたってリーダーシップを発揮してきた世界中の人々と、連携していきたいと考えている。オープンアクセスの基準に関する今後のさらなる取り組みは、例えば Directory of Open Access Journals (DOAJ)、Open Directory of Open Access Repositories (OpenDOAR)、SHERPA/RoMEO、出版規範委員会 (COPE)、Efficiency and Standards for Article Charges (ESAC) イニシアチブなどの他の多くの団体と連携していく予定である。

2019 年 5 月、cOalition S は、アフリカ・オープンサイエンス・プラットフォーム、AmeliCA、OA2020 および SciELO とともに「オープンアクセスに関するサンパウロ声明」を立ち上げた。我々は正式には学術研究やイノベーションに係る助成機関の cOalition S であるが、オープンアクセスに関する我々の目標を共有してくれる連携機関や支持団体との、一層の協働の取り組みを歓迎している。特に Plan S が若手助成金受給者の職業上の経歴に及ぼす影響についての課題を真剣に考慮しており、(例えば欧州博士候補生・若手研究者評議会 [European Council of Doctoral Candidates and Junior Researchers、Eurodoc] やグローバルヤングアカデミー [Global Young Academy、GYA]、マリー・キュリー同窓会 [Marie Curie Alumni

Association、MCAA]、欧州若手アカデミー[Young Academy of Europe、YAE]などの) 若手研究者を代表する汎ヨーロッパ最大の連合団体が我々との建設的な対話に従事してくれたことに感謝している。これらの人々の積極的な関わりは今後の構造的な関与の礎をなすものであり、我々はこれを、完全かつ即時のオープンアクセス追及において我々を支援したいと考えてくれる他のグループにも、拡大したいと希望している。

我々の目的

我々のもとに寄せられたフィードバックは、完全かつ即時のオープンアクセスを実現するという大枠が、広く支持されていることを示すものであった。**すなわち、Plan S の包括的な目標には異議はなかった。**

完全かつ即時のオープンアクセスとは

多くの回答者はみずからオープンアクセスの支持者であると回答したものの、そのコメントからは、即時的ではない、または部分的なオープンアクセスに甘んじていることが明瞭である。我々は、即時でないアクセス、あるいは広範囲での再利用にライセンスを付与していないアクセスは完全かつ即時のオープンアクセスではないという見解を繰り返し述べている。定期購読ルート（以下を参照）を我々が支援する場合、受理された著者最終原稿（AAM）または出版用レコード（VoR）のいずれかの形態により、出版の時点でコンテンツの自由な入手が可能でなければならない。実際にすでに一部の出版者ではこれが慣習になっている。

スケジュール

実施に関するガイダンスの原案には 2020 年 1 月 1 日が我々の出発点であると記されており、この日付以降にそれぞれの助成機関の裁量で募集または助成が案内される。我々は、助成機関が定めた開始時点から移行期間があることを見込んでいた。この移行を成功に導くために学術出版システム全体で経験してきた取り組みの状況を認識し、献身的な取り組みをオープンアクセス出版への要件遵守経路に転換できる期間として、我々はさらに 1 年の猶予を置くことを決定した。

我々が課すこととそのため移行期間の正式な開始時期は、2021 年 1 月 1 日になる。このようなスケジュールは、研究者や研究機関、出版者、リポジトリが必要な変更に合わせて調整を行い、助成機関のポリシーを構築し、施行するための時間的余裕を提供するものである。さらに我々は、既存の出版者が 2024 年までに指定された条件のもとで完全かつ即時のオープンアクセスに円滑に移行できるようにするための体制も備える予定である。

要約すると、我々は Plan S に述べられている具体的な目的を充足できるよう、献身的に

取り組んでいる。遅くとも 2021 年 1 月 1 日の時点で、あるいは個々の参加機関の選択によってはそれよりも早い時期に発表される募集において、cOalition S 参加機関から資金提供を受けた研究の成果である出版物はオープンアクセスの場（ジャーナルおよびプラットフォーム）で出版されるか、もしくはオープンアクセスリポジトリで入手が可能でなければならない。

2024 年末までに cOalition S は、Plan S の様相と効果について確認するため、正規のレビュープロセスの決定する予定である。

完全かつ即時のオープンアクセスへの経路

cOalition S の参加機関は、完全かつ即時のオープンアクセスを実現できる最善の経路に関する見解が、学术界や学問領域、地域、国、利害関係者グループに応じて異なる可能性があることに留意した。オープンアクセスの長年の支持者の中ですら多様に異なる見解は、助成機関として完全かつ即時のオープンアクセスに向けた多様な経路に支援を提供しなければならないという我々の見解を補強している。多くの場合は大学や研究団体、またはそのコンソーシアムに関わる機関になるが、それらが完全かつ即時のオープンアクセスの実現に向けて自らが希望する経路を決定できるよう、Plan S は、複数の経路を提供する助成機関の条件を通してオープンアクセスを構築するという、長年にわたって確立されてきた慣習を礎とする。

我々は、すでに言及したように、リポジトリへの AAM または VoR のデポジットを活用することにより、定期購読モデルでの取り組みを希望する人々に明確な経路を提供している。

我々は、移行契約を通じて既存の定期購読契約から移行することを希望するコンソーシアムや学术界に対し、明確な経路を支援している。これらの移行契約には、現時点で実施されている類の移行契約、変化を支援するためのモデル契約、ならびに新たな形態での「移行型ジャーナル」が含まれる。

我々は、大学コンソーシアムや研究機関、これらの多くは OA2020 の関心表明に署名しており、出版者レベルの移行契約を確立しようとするその動きに大いに感銘を受けている。多くの国や研究機関のコンソーシアムは移行契約の経路を採択しており、定期購読契約を取り消しているか、もしくは出版者との「read-and-publish」または「publish-and-read」契約に署名している。これらの契約は、コミュニティに固有の出版嗜好に従い、定期購読からオープンアクセス出版へと今日の学術ジャーナルを変容させるものである。これらの多くは ESAC のウェブサイトに登録されている。このような進展が広く認識されているのかどうか

は定かでないが、現時点でジャーナルの定期購読に費やされているリソースを持続可能なオープンアクセスモデルを支援するための資金に転換できる取り決めに対し、今後一層の周知が図られるよう期待している。著者が直面する出版料が課されないこれらの契約に移行することで、完全かつ即時のオープンアクセスに対する複数の経路のいずれかに過度に集中してしまう懸念に対処できるのではないかと考えている。

Plan S は、完全かつ即時のオープンアクセスに向けて期限が設定される中で、出版者にとって都合の良い、あるいは出版者が着手したモデルを進捗させるような形態の移行契約にも、門戸を開いている。

従って、我々は今後も引き続き、Plan S の規約遵守に対し、次の3つの経路を支援していきたいと考えている。

- オープンアクセス出版の場（ジャーナルおよびプラットフォーム）
- 定期購読の場（リポジトリ経路）
- 定期購読からの移行の場（移行契約）

cOalition S の助成機関は、オープンアクセス出版における出版料を経済的に支援するとともに、オープンアクセスを可能とするジャーナルまたはプラットフォームの構築に対して、総合的に奨励策を確立していく予定である。参加機関の裁量により、移行契約には助成を提供することができる。

中にはダイヤモンドオープンアクセスや多様な形態の革新的なオープンアクセスプラットフォームといった経路に対する我々の着目が不十分だと考えている回答者もいた。何度も述べていることだが、我々は完全かつ即時のオープンアクセスのため、適正に確立された供給メカニズムとしてこれらのモデルも支持している。特にこれを強調していないのは、すでに明らかに成功を収めている移行要素であり、Plan S に整合しているこれらには特に留意する必要がないと想定した結果である。ダイヤモンドオープンアクセスにはすでに多くの助成機関が支援を提供しており、今後もそうであると思われる。我々は、自分たちが発表した総合的支援の状況の中で、必要に応じて一層の支援提供を検討する予定である。

研究者へのアクセス

一部の回答者からは、とりわけ、Plan S の要件事項に整合していないけれども影響力の大きい出版物との関連や、cOalition S 参加機関以外の研究者との協働について、cOalition S 参加機関の助成を受給しても我々の要件に対応することで不利な状況に置かれることを懸念する声が聞かれた。我々自身の地理学的な対象地域が拡大しており、これに伴って cOalition

Sに参加する助成機関が増えているだけでなく、我々のサービス契約は、すでに述べたように多くの国で定着しつつある OA2020 イニシアチブと大部分が整合していることに着目している。我々は、3つの経路により、研究者には多様な場で出版できる十分な選択肢を提供できるはずであると確信している。

我々は多くの国の助成機関による支援表明を歓迎しており、支援はしてくれているが正規の参加機関でない人々に対して、Plan S のガバナンスと方向性に積極的に寄与できるよう、実際に cOalition S に正規に参加するよう要請している。本文書において、我々はコンサルテーションから寄せられた最も重要なコメントへの対処を試みてきた。我々はまた、改訂したガイダンスが、すべての研究者にとって、完全なオープンアクセス出版という選択肢の確立に対する我々の献身的取り組みを実証するものとなるよう希望している。

一部の回答者からは、Plan S はオープンアクセスのための出版モデルに過度に重点を置いており、これによってこのような発表の場が増加し、既存の論文掲載料の値上げにつながるのではないかという懸念が寄せられた。回答者らは、これにより、助成の得られない研究者が出版オプションを特定するのはさらに難しくなると提唱している。我々は現在、中所得国および低所得国の研究者に対する出版料のディスカウントと放棄に関するガイドラインを作成しているところである。我々は、適切な権利放棄の適用について、また、それが出版コストに照らして公正かつ合理的な請求額であり、助成のない研究者が支援を受けられるのかどうかについてさらに突っ込んだ協議が行われるのを期待している。

我々は、出版者／サービスプロバイダの変革を通じて、学術的な編集委員会主導の方向転換が行われていることに着目している。我々は完全かつ即時のオープンアクセスモデルを熱望するすべての人を称賛しており、我々の目的への自然な経路としてこれらの活動を明示的に支援してきた一部の参加機関の経験を土台にしたいと考えている。

プレプリント

我々は、オープンアクセスを支持するものの、査読が行われていないプレプリントにアクセスするだけで十分だと考えている人々からのフィードバックにも、注目している。繰り返しとなるが、我々はプレプリントの共有を歓迎している。ただし、査読のプロセスは学術出版物に重大な価値を付与するものであるという回答者からのコメントに強く同意する。我々は、それが AAM や VoR の形態であるかどうかに関係なく、学術的な査読をきちんと受けた出版物へのオープンアクセスを信頼しているのである。

品質

cOalition S は何度も繰り返し、品質には妥協しないと述べている。我々は他の形態による

品質保証に加え、しっかりとした査読システムに献身的に取り組むことを強調している。強力な品質保証システムを備えたジャーナルが認識され、支持されるよう、パートナー団体と連携できることを期待している。我々はオープンアクセス出版に伴って品質が低下するという概念には根本的に意見が異なる。我々はジャーナルに対する適切な品質基準の構築に向けて COPE が実施している取り組みを歓迎しており、研究調査や編集、校閲のプロセスを実施する人々を巻き込んだ一層の協議により、我々の品質保証システムが強化されるよう希望している。

著作権

我々のもとに寄せられた回答により、出版者の業務は自分たちが提供したサービスの部分で認識し、著作権はあくまで著者または所属機関にあるという我々の見解は強まった。我々はこの点において、Harvard Individual Open Access ライセンスなどのイニシアチブや、英国における UKSCL Model Institutional Open Access Policy などが実施している取り組みを認識している。我々は今後、著者が論文をオープンアクセスにする権利を求めて出版者と個別に交渉しなくてもよいよう、類似のメカニズムを構築していく予定である。さらには、制度や国内法のレベルで権利保有のアプローチをより広義に採択していく必要があると確信している。

ライセンス

我々は CC BY ライセンスを適切なものと考えて、助成する研究については可能な限り広く批評や再利用に供されるよう奨励している。我々がより制限の厳しい CC BY-ND や CC BY-NC を Plan S の規約遵守への指定に受容しないのには、説得力のある理由がある。その一つは、学術出版物の教育目的への再利用である。そしてもう一つの理由は、(製薬企業が新しい薬剤やワクチンを開発するための努力において行う学術論文のマイニングや、デジタルヒューマニティーズ手法の理論的裏付けなどの) 商業的理由を含め、(機械可読などの) 最新技術による学術成果物の大規模なコンテンツマイニングを許容し、実現していきたいと我々が希望している点にある。我々は公的助成による研究の成果にもとづくイノベーションの有用性と潜在的可能性を強く確信しており、研究成果の再利用に対する非商業的な制限は受容しない意向である。

ライセンスが付与された資料を再利用する場合の変更に対して、CC BY ライセンスではこれらの変更の内容を明確に指し示すよう求めている。cOalition S の参加機関は従来、創造的な学術研究の場合、改変や修正が権利や責任に関わる重要な問題を提起させてきたことを認識している。我々はまた、論争を呼ぶ研究の不当な表示は保護手段やコミュニティ基準の厳格化を要する問題であることも認識している。特に HSS (Humanities and Social Science、人文社会科学) コミュニティなどが表明している懸念に対処するための暫定的な措置とし

て、我々は助成機関が CC BY ライセンスに対する要件事項の適用を免除し、事例ごとに CC BY-ND の適用を認めるよう積極的に検討すべきであると勧告している。

ハイブリッド型ジャーナルと移行契約

一部の回答者からは、過去数年間、ハイブリッド型ジャーナルは合理的な費用での完全かつ即時のオープンアクセスに成功していないという我々の見解を再考すべきだという論証が示された。我々は上述の「完全かつ即時のオープンアクセス経路」のもとでの移行契約を推薦している。しかしながら、移行契約に該当しないハイブリッド型ジャーナルが遅延のない完全かつ即時のオープンアクセスを提供していないという我々の見解を論駁しうる証拠はまだ確認できていない。

包括的な移行契約が適用できないケースに対し、cOalition S では、オープンアクセスコンテンツの占有率を徐々に増やし、(二重の支払いを回避するため) 定期購読コストを出版業務への支払いによって得た収入で相殺し、ジャーナルが合意期間内の完全なオープンアクセスへの移行を明確に誓約する個別の「移行型ジャーナル」のための潜在的な枠組の可能性についても検討していく予定である。我々は、出版者が完全かつ即時のオープンアクセスへの移行を実証するパフォーマンス指標に献身的に取り組んでいくものと予想している。このような方法により、出版者は、我々の助成を受ける人々が移行期間にこれらのジャーナルにおいて規約に従った形で出版を継続できるようにしていけるものと思われる。

我々の見解はここに詳述したように、移行契約以外のハイブリッド型ジャーナルでのオープンアクセス出版料には助成を行わないというものである。繰り返しとなるが、定期購読ジャーナルに掲載する研究者は、リポジトリにデポジットすることで、猶予期間なく規約遵守を確立することができる。

費用

Plan S は主として、適切な再利用の権利を伴う完全かつ即時のオープンアクセスの提供に取り組むものである。ただし我々は、学術出版物の普及システムは極度に圧迫された状態にあり、多くの回答者は費用に関わる制約から必要な資料一式へのアクセスは得られていないと回答してきた人々の見解を認識している。

回答者の中には完全かつ即時のオープンアクセスへの移行に付随する費用について、懸念している人々もいた。我々は多くの国ですでに追加費用をまったく、あるいはごくわずかしか課さずに確立されている移行契約を推奨しており、移行契約に関する完全な透明性を求めている。この点に加え、複数の国で大学コンソーシアムやその他の団体が費用効果の適正な契約を出版者と締結しようと熱意をもって取り組んでいることや、定期購読ジャーナ

ルへのエンバーゴのないアクセスの導入は、費用がオープンアクセスへの重大な障害ではないことを我々に指し示している。我々はまた、いくつかのイニシアチブが複数の利害関係者間でのコストの配分を探求し、モデリングしていることに着目しており、このような取り組みが参加助成機関の Plan S 実施の細部にどのような影響を及ぼすかに関心をもって追跡していきたいと考えている。

実施に関するガイダンスに述べられているように、出版者と研究団体、大学、助成機関との交渉において費用の透明性が得られるべきであるというのが我々の見解であることに変わりはない。助成機関として、研究に費やされる公的支出が経済的にも道徳的にも正当なものになるよう、研究助成システムの費用対効果を徹底するのが我々の意図である。我々はこのような透明性への希望と、必要であれば（出版業務に対する請求への助成に上限を課すことにより）助成金授与のプロセスにおけるコスト管理を進んで検討する意欲を繰り返し述べている。出版料を徴収する場合、これらは提供される出版業務と釣り合うものでなければならない。同時に、我々は透明性と費用および価格の明確な理解を維持するための継続的な監視を確立するという意図を進捗させたいと考えている。後日、非合理的なレベルが確認された場合には、協調的な形態で出版費用の上限設定を実施するよう決断する可能性がある。

リポジトリの役割

かなりの数にのぼるフィードバックを熟考し、学術出版物の保管を超えた機能を果たせるよう、リポジトリの役割を明確化した。cOalition S は、選択する規約遵守の経路に関係なく、それぞれの出版物をリポジトリにデポジットするよう研究者に働きかけている。エンバーゴのない形でリポジトリに AAM または VoR をデポジットするというのは規約遵守の一つの経路であり、移行契約を締結していない定期購読ジャーナルでの出版における唯一の要件遵守経路になる。我々は（JATS/XML に対する必須要件事項を含めて）我々が提案した技術的要件事項の一部は過度に意欲的なものであったかもしれないと指摘するフィードバックに留意し、これに対応して、実施に関するガイダンスの「第 III 部 技術的ガイダンスおよび要件事項」に記載するとおり、我々の求める要件事項を調整した。我々の詳述する技術的要件事項は新世代のリポジトリプラットフォームに向けた経路の土台となるべきものであるという我々の趣旨には変わりはない。

学協会

多くの回答者が学協会の特殊な立ち位置に注意を喚起していた。cOalition S の参加機関は学協会を学術基盤の必須要素と考えているが、我々は学協会のタイプや規模には数多くの異なる持続可能性のモデルが存在することを認識している。幸いに、学協会の出版業界によるオープンアクセスへの移行と Plan S への整合化を支援する目的でウェルカム、英国リサーチ・イノベーション機構および学協会出版者協会 (ALASP) が委託したプロジェクトにお

いて多くの異なるモデルが特定されており、学協会の完全かつ即時のオープンアクセスへの移行を支えるものと考えられる。我々はこのような移行支援の実用的な側面にさらに詳細な取り組みを行っている。特に、モデル契約の確立を支援することにより、規模の小さな学協会が移行契約に関与できるよう、OA2020 および ESAC コミュニティと連携していく計画である。我々は移行に関わるリスクについて提起されている課題も認識しており、学協会とともにこれらをさらに深く探求していくことを期待している。

評価システムに対するレビューの必要性

特にキャリアの浅い若手研究者をはじめとする多くの回答者が、制度や助成機関、政府が利用する多様な評価システムを改訂する重要性に、我々の注意を促していた。ガイダンスの新たなバージョンにおいて、我々はサンフランシスコ研究評価宣言（DORA）のほか、例えばライデン声明などの類似のイニシアチブへの誓約を明確化しており、米国科学アカデミーが現在実施しているイニシアチブを含むパートナーとの連携に献身的に取り組んでいる。我々は、すべての当事者がこの課題に向けて同時期に連携することが不可欠であると考えている。また、雇用する機関がそれぞれの評価手順の改訂に取り組み、これを Plan S への移行の中で実施に向けて進めていくことが、若手研究者にとって重要であることに着目している。

多くの回答者から、広義でのオープンサイエンスの多様な要素への移行において、オープンアクセスがどのような背景状況にあるのかについて、より明確な説明を求められた。cOalition S の連携機関は、「オープンかつ公正なデータ」を含め、オープンサイエンスの多くの側面に意欲を示しており、Plan S はオープンサイエンスを促進していくうえで重要な要素であると捉えている。我々は現在の活動を土台とし、研究とイノベーションのエコシステムの中で多くの連携機関とさらに連携を深めることを大いに期待している。我々は「設計によるオープンサイエンス（Open Science by Design）」における連合に着目し、その価値を高く評価している。研究やイノベーションから得られる価値をすべての国の国民に提供できるよう、研究者、研究機関、助成機関そして政府が一体となって主導すべき行動計画の支援を楽しみにしているのである。

異なる学問領域における多様な経路の支援

cOalition S は学問領域の違いやそれぞれに異なる出版文化に慎重に配慮しており、オープンアクセスがそれほど発達していない学問領域が存在する可能性があることを認識している。我々は質の高いオープンアクセスの場が得られない学問領域におけるオープンアクセス基盤の構築の支援に総合的に取り組むことを繰り返し述べている。現在、異なる学問領域における出版システムの潜在的な能力に対する分析（「ギャップ」分析）を実施しているとこ

ろである。この分析により、支援の必要な分野や対処を要する具体的な実地の課題、既存の模範的慣習分野が特定されるものと思われる。我々は、Plan S への多様な要件遵守経路を構築することで、あらゆる学問領域におけるオープンアクセスの選択肢を提供できる十分な順応性が確保できると考えている。完全かつ即時のオープンアクセスの原則は汎用的価値を持つものであり、あらゆる学問領域に適用できると確信しているのである。

我々は、モノグラフと図書は SSH 研究における学術コミュニケーションの重要な一部分であることを認めており、この分野に関わる具体的な問題について、さらに広範囲での協議が必要であると考えている。従って、現時点のガイダンスは（図書の章を含む）図書とモノグラフには適用されない。cOalition S は 2021 年末までに、モノグラフおよび図書の章に適用される Plan S の原則についての声明を、実施に関わるガイダンスとともに発表する予定である。

クリティカルマス

多くの回答者から、cOalition S は世界の多様な地域における新たな参加機関の関心と呼んではいるものの、まだ世界中の研究成果物の提示に占める割合はそれほど大きくないという意見が寄せられた。我々は、完全かつ即時のオープンアクセスへの移行を適正に実現するためには、cOalition S がさらに成長し、我々の趣旨を共有する連携機関と連携しなければならないことを認識している。現在のガイダンスにおける変更の一部や原則の再構成を提案したのは、まだ cOalition S への参加に署名していない助成機関から提起されている課題に対処するためである。

Plan S の発表からわずか数カ月のうちに参加する助成機関の数は 2 倍になり、大陸を越えた参加や心強いサポートを表明してくれた助成機関もあり、国際的なイニシアチブとなっている。我々は欧州の内外を問わず、さらに多くの助成機関が cOalition S に参加し、整合化を図ることにより、完全かつ即時のオープンアクセスへの移行を支援してくれることを期待している。

追加情報

- ・「合理的根拠」をダウンロード
- ・ Plan S の実施に関するガイダンス原案に関して受領したパブリックコメント（Zenodo 管理のデータ集合）